

# 「呼称」についてあれこれ

札幌市医師会  
時計台メンタルクリニック

木津 明彦

## 第1話 スイートルーム

ホテルの「スイートルーム」というのは、新婚さんが泊まるような豪華で甘い感じのする部屋だと思っていた。「スイートホーム」という言葉があるくらいだから、そう認識して無理もなかろう。

ところが、ある時、優待券を利用して某有名ホテルの「ビジネス・スイート」に宿泊したとき、あまりの殺風景さに憤慨し、アンケートに苦情を書き込んだことがあった（後日、支配人から丁寧な礼状までもらっている）。数年後、とあるホテルで、スイートルームが“suite room”と表示されているのを見かけて、胸騒ぎに襲われ辞書を調べたところ、「二間続きの部屋」という意味だとわかった。旅の恥はかき捨てとはいえ、やっちゃったなあという苦い記憶が残った次第。

それでも“suite”をローマ字読みすれば、「好いて」であるから、「suite room＝好いてルーム＝新婚さんの甘い部屋」という珍解釈もできるかもしれない。

## 第2話 オホーツク地方

幼少の頃、わが家の和式トイレの壁に、地理の勉強のためにと、母が大きな世界地図を貼ってくれていた。北米やシベリアがやたら広大な、あのメルカトル図法というものだ。便器をまたいでしゃがむと、眼前に展開するのは、ちょうど日本列島で、視線を上げると、樺太、オホーツク海、さらに北上して、対岸に「オホーツク」という都市が目に残った。というわけで、この海の名称がこの都市に由来することは知っていた。

ところが、何たることか、2010年4月1日、網走支庁が廃止され「オホーツク総合振興局」が発足してしまった。オホーツク海に面しているから、そのように命名したのだろうか、この論法からすると、東シナ海に面している地方は「東シナ地方」か？道庁のお役人さんには、トイレの壁に世界地図を貼っておくことをお勧めしたい。

## 第3話 内地

「内地」の定義については、そもそも「外地」とは何ぞやということ論ずる必要がある。おおざっぱに言うと、日本国の主権が及ぶが、憲法が施行されていない地域のことである。戦前においては次のとおりであった。台湾、朝鮮、南樺太、内南洋（サイパン、パラオ等）、関東州（遼東半島先端部）、南

満洲鉄道附属地（大連—新京間）。これらの外地から、帝国議会に衆議院議員を送り出すことは認められなかった。

なお、南樺太は、1943年に勅令「樺太ニ施行スル法律ノ特例ニ関スル件」の廃止に伴い、内地に編入された。ましてや、北海道においては、開拓使が公文書上で、道外のことを「内地」と表記するのを禁じるほどであった。つまり、北海道は維新このかた一度も「外地」であったことがなく、第1回帝国議会から衆議院議員を選出しているのである。

## 第4話 軍艦の名前

帝国海軍の艦艇の命名法は、概ね次のとおりである。

戦艦	：旧国名	例：長門、大和
巡洋艦	：山岳・河川名	例：高雄、夕張
駆逐艦	：花鳥風月や天候気象	例：雪風、秋月
航空母艦	：空に因んだ動物	例：瑞鶴、大鳳

とても雅やかである。英国海軍のような「ドレッドノート（恐れ知らず）」「インドミタブル（不屈）」といった武骨な命名を、帝国海軍は嫌ったのであろう。

また、世界的にみると、軍艦の名前には人名を冠することが多い。たとえば、英国の戦艦「ネルソン」やドイツの戦艦「ビスマルク」である。いずれもフランス人にとって好ましい人物ではないと思われるが、英独とも遠慮なく命名している。しかし、フランスも負けてはおらず「ジャンヌ・ダルク」「シャルル・ド・ゴール」という軍艦がある。

お隣の国・韓国ではどうだろうか？以下に列挙してみる。

文武大王：白村江の戦いのときの新羅王

世宗大王：15世紀、応永の外寇で対馬を攻撃して敗退した李氏朝鮮王

忠武公 李舜臣：太閤秀吉の朝鮮征伐の際の李氏朝鮮の提督

安重根：伊藤博文公の暗殺犯人

これまた「祖国の英雄たち」がずらりと並ぶ。おまけに「独島」という軍艦まである。

一方、わが国では、今日でも美しい伝統が守られており、海上自衛隊が運用する南極観測船「しらせ」が白瀬中尉に由来する以外、人名が艦名に用いられることはない。したがって、「神功皇后」「豊臣秀吉」「伊藤博文」といった名前の艦艇はなく、特に、わが国の全通型飛行甲板を有する4隻のヘリ空母の艦名は「いせ」「ひゅうが」「いずも」「かが」と、美しく旧国名で統一されている。